

# 曲線と曲面——微分幾何的アプローチ（裳華房）初版正誤表

梅原雅顕・山田光太郎

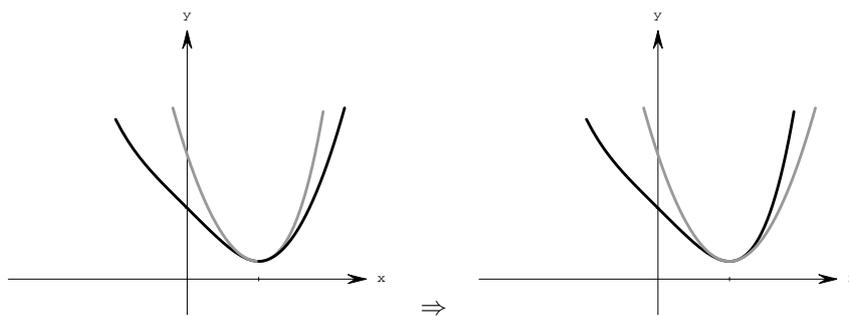
2010/11/20

---

青字は修正対象箇所，赤字は修正後の文章．

---

- 9 ページ 2 行目： 「 $\varepsilon = 1$  のときは直線になる」 $\Rightarrow$  「 $\varepsilon = 1$  のときは線分になる」
- 15 ページ 図 2.4 左側：

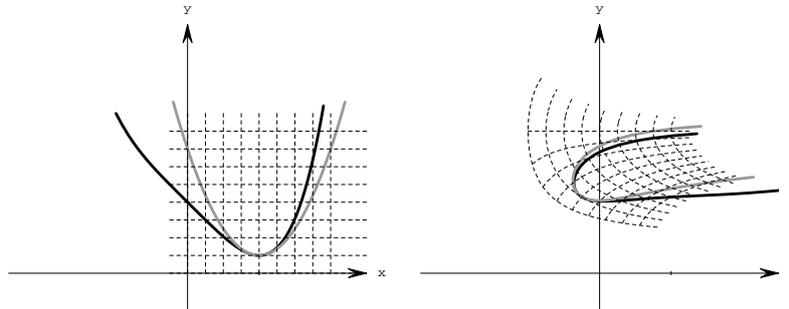


- 18 ページ , 10 行目

$$\det \begin{pmatrix} x_r & x_\theta \\ y_r & y_\theta \end{pmatrix} = \begin{vmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{vmatrix} = r \neq 0$$
$$\Rightarrow \det \begin{pmatrix} x_r & x_\theta \\ y_r & y_\theta \end{pmatrix} = \det \begin{pmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{pmatrix} = r \neq 0$$

● 18 ページ 図 2.5 :

図を以下のものに差し換える :



● 28 ページ, 下から 4 行目

曲線は弧長  $s$  により  $\gamma(s)$  ( $0 \leq s \leq l$ ) と助変数表示され  $\gamma(0) = \gamma(l) = P$  であるとして一般性を失わない.

⇒

曲線は  $\gamma(s)$  ( $0 \leq s \leq l$ ) と弧長  $s$  で表示され, 必要なら向きを逆転させて  $\gamma'(0) = (1, 0)$  かつ  $\gamma(0) = \gamma(l) = P$  としてよい.

● 30 ページ, 2 行目

「 $\Theta(0, l) - \Theta(0, 0) = \pm\pi$ 」 ⇒ 「 $\Theta(0, l) - \Theta(0, 0) = \pi$ 」

● 33 ページ, 定理 3.4, 1 行目

点  $P$  で, 進行方向に向かって右手に無限遠方を見るようなものをとる.

⇒

点  $P$  を, 接線に対して曲線上の点がすべて, 進行方向左側となるようにとる.

● 33 ページ 補題 3.5 :

補題 3.5 ジェネリックな閉曲線  $\gamma$  と単純閉曲線  $\sigma$  が有限個の点で接することなく交わっていて,  $\sigma$  上には  $\gamma$  の自己交叉がないものとする. このとき,  $\gamma$  と  $\sigma$  が交わる点  $Q$  において  $\gamma$  の進行方向に対して  $\sigma$  が左側から右側へ交叉するとき,  $\text{sgn}_{\gamma, \sigma}(Q) = +1$ , 右側から左側へ交叉するとき,  $\text{sgn}_{\gamma, \sigma}(Q) = -1$  とすると, 次が成り立つ:

⇒

補題 3.5 ジェネリックな閉曲線  $\gamma$  と単純閉曲線  $\sigma$  が有限個の点で接することなく交わっていて,  $\sigma$  上には  $\gamma$  の自己交叉がないものとする. このとき,  $\gamma$  上に基点をとり,  $\gamma$  が  $\sigma$  と交わる点  $Q$  をはじめて通るとき,  $Q$  において  $\gamma$  の進行方向に対して  $\sigma$  が左側から右側へ交叉するならば,  $\text{sgn}_{\gamma, \sigma}(Q) = +1$ , 右側から左側へ交叉するとき,  $\text{sgn}_{\gamma, \sigma}(Q) = -1$  とすると, 次が成り立つ:

● 34 ページ, 2 行目 以下を削除:

そこで  $\gamma$  が少なくとも 1 つ自己交叉をもつとすると,  $\gamma$  は少なくとも 1 つ自己交叉のないループをもつ.

- 34 ページ 定理 3.4 の証明, 図の下:

自己交叉が  $n - 1$  個の曲線については定理が成立すると仮定し, 自己交叉が  $n$  の場合を考える. 基点  $P$  を出発して, 初めて出会う自己交叉のないループの角を  $Q_1$  とし,  $Q_1$  が正交点〔負交点〕とする. 点  $Q_1$  からそのまま進んでふたたび  $Q_1$  に戻るループの角を ( $C^\infty$  級で) 丸めてできる単純閉曲線を  $\gamma_1$ ,  $Q_1$  を右折〔左折〕してふたたび  $Q_1$  に戻るループの角を丸めてできる閉曲線を  $\gamma_2$  とする (図 3.6. 角を丸める方法については付録 B-5 の命題 5.7 参照).



自己交叉が  $n - 1$  個の曲線については定理が成立すると仮定し, 自己交叉が  $n$  の場合を考える. 自己交叉  $Q_1$  を一つ選び,  $Q_1$  からそのまま進んでふたたび  $Q_1$  に戻る曲線の部分の角を ( $C^\infty$  級で) 丸めてできる閉曲線  $\gamma_1$  が単純閉曲線となるようにすることができる. そのような自己交叉のうち, 基点  $P$  を出発して最初にあらわれるものを  $Q_1$  とすると  $\gamma_1$  は  $Q_1$  より手前の交点を通らない. 一方,  $\gamma_1$  と反対側に角を丸めてできる閉曲線を  $\gamma_2$  とする. (角を丸める方法については付録 B-5 の命題 5.7 参照).

- 34 ページ, 下から 5 行目 すると  $\Rightarrow$  ここで,  $Q_1$  の交点の符号に注意すると,

- 34 ページ, 下から 3 行目

$$\begin{aligned}
 &= \text{sgn}_{P,\gamma}(Q_1) + \sum_{R: \gamma_2 \text{ 上の } \gamma_1 \text{ との交点}} \text{sgn}_{\gamma_2,\gamma_1}(R) + \sum_{S: \gamma_2 \text{ の自己交叉}} \text{sgn}_{\gamma_2,\gamma_2}(S) \\
 \Rightarrow &= \text{sgn}_{P,\gamma}(Q_1) \left( 1 + \sum_{R: \gamma_2 \text{ 上の } \gamma_1 \text{ との交点}} \text{sgn}_{\gamma_2,\gamma_1}(R) \right) + \sum_{S: \gamma_2 \text{ の自己交叉}} \text{sgn}_{\gamma_2,\gamma_2}(S)
 \end{aligned}$$

- 42 ページ 5 行目: 「系 2.8 より接触の次数は」  $\Rightarrow$  「命題 2.6 より接触の次数は」

- 43 ページ 1 行目: 「 $T \circ \gamma$  は  $P$  において」  $\Rightarrow$  「 $T \circ \gamma$  は  $T(P)$  において」

- 46 ページ 1 行目:

「このとき  $\kappa(s) = |e'(s)|$  とおけば」

$\Rightarrow$  「いま  $\kappa(s) = |e'(s)|$  とおけば ( $e'(s) = 0$  ならば  $\kappa(s) = 0$  とする)」

- 46 ページ 2 行目: 「 $\kappa(s) = |\gamma''(s)| > 0$ 」  $\Rightarrow$  「 $\kappa(s) = |\gamma''(s)| \geq 0$ 」

- 47 ページ一番下: 「 $\kappa(s) = |\gamma'(s) \times \gamma''(s)|$ 」  $\Rightarrow$  「 $\kappa(s) = |\gamma''(s)|$ 」

- 48 ページ, 脚注 2)

「フレネ」  $\Rightarrow$  「フルネ」

- 50 ページ, 2 行目

「 $\mathcal{F}(s)$  は  $s$  によらない定数行列」  $\Rightarrow$  「 $\mathcal{F}(s)^t(\mathcal{F}(s))$ 」は  $s$  によらない定数行列」

- 57 ページ下から 8 行目 (回転レムニスケートの定義域):

$$\begin{aligned} \text{「} D = \{(u, v) | 0 \leq u < \pi, 0 \leq v < 2\pi\} \text{」} &\Rightarrow \text{「} D = \{(u, v) | 0 \leq u \leq \pi, 0 \leq v < 2\pi\} \text{」} \\ &\quad (0 \leq u < \pi \text{ の不等号の 2 番目の不等号に等号を入れる)} \end{aligned}$$

- 59 ページ 14 行目: 「55 ページ」 $\Rightarrow$  「57 ページ」

- 59 ページ 17 行目 (6.9) 式:

$$z = \pm c \sqrt{\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2}} \quad \Rightarrow \quad z = \pm c \sqrt{1 - \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2}}$$

- 60 ページ一番下: 「(証明は節末問題とする.)」を削除

- 67 ページ下から 9 行目:

$$\text{「} xy \text{ 座標に関する第一基本量は」} \Rightarrow \text{「} xy \text{ 座標に関する第一基本形式は」}$$

- 68 ページ 6 行目:

$$\begin{aligned} dp = b(-\sin u \cos v, -\sin u \sin v, \cos v) du \dots \\ \Rightarrow \quad dp = b(-\sin u \cos v, -\sin u \sin v, \cos u) du \dots \end{aligned}$$

- 78 ページ下から 6 行目:

$$\begin{aligned} \text{「} = a \cos(u + \delta) \quad (a = \sqrt{\alpha^2 + \beta^2}, \delta = \arctan(\alpha/\beta)) \text{」} \\ \Rightarrow \quad \text{「} = a \cos(u - \delta) \quad (a = \sqrt{\alpha^2 + \beta^2}, \delta = \arctan(\beta/\alpha)) \text{」} \end{aligned}$$

- 79 ページ下から 4 行目:

$$\text{「とくに } a = 1 \text{ で } b = 0 \text{ のとき」} \quad \Rightarrow \quad \text{「とくに } a = 0 \text{ で } b = 1 \text{ のとき」}$$

- 79 ページ (8.11) 式:

$$x(u) = e^u, z(u) = \int_0^u \sqrt{1 - e^{2t}} dt \quad \Rightarrow \quad x(u) = e^{-u}, z(u) = \int_0^u \sqrt{1 - e^{-2t}} dt$$

- 83 ページ定理 9.1:

$$\begin{aligned} \text{定理の 1 行目: 「点 } P \text{」} &\Rightarrow \text{「点 } P = \gamma(s_0) \text{」} \\ \text{定理の 2 行目: 「点 } \gamma'(s) \text{」} &\Rightarrow \text{「点 } \gamma'(s_0) \text{」} \\ \text{定理の 3 行目: 「点 } \gamma'(s) \text{」} &\Rightarrow \text{「点 } \gamma'(s_0) \text{」} \end{aligned}$$

- 84 ページ 2-4 行目:

$$\begin{aligned} \text{2 行目: 「} \sigma''(s) \cdot \nu \text{」} &\Rightarrow \text{「} \sigma''(s_0) \cdot \nu \text{」} \\ \text{2 行目: 「} \sigma''(s) \text{」} &\Rightarrow \text{「} \sigma''(s_0) \text{」} \\ \text{2 行目: 「} \sigma'(s) = \gamma'(s) \text{」} &\Rightarrow \text{「} \sigma'(s_0) = \gamma'(s_0) \text{」} \\ \text{2 行目最後: 「直交し, 法線と」} &\Rightarrow \text{「直交し, } \sigma(s) \text{ は法線と」} \\ \text{3 行目: 「} \sigma'(s) = \gamma'(s) \text{」} &\Rightarrow \text{「} \sigma'(s_0) = \gamma'(s_0) \text{」} \\ \text{3 行目: 「} \sigma''(s) \text{」} &\Rightarrow \text{「} \sigma''(s_0) \text{」} \\ \text{4 行目: 「} \sigma'' = \kappa_n \nu \text{」} &\Rightarrow \text{「} \sigma''(s_0) = \kappa_n(s_0) \nu \text{」} \\ \text{4 行目: 「} \sigma(s) \text{ の平面曲線としての」} &\Rightarrow \text{「} \sigma(s) \text{ の } s = s_0 \text{ における平面曲線としての」} \end{aligned}$$

- 89 ページ 3 行目 :

$$f(x, y) = Lx^2 + Ny^2 + o(|x|^2 + |y|^2) \Rightarrow f(x, y) = \frac{1}{2}(Lx^2 + Ny^2) + o(x^2 + y^2)$$

(冒頭に 1/2 をつける . さらに  $o(\cdot)$  の中の絶対値をはずす)

- 89 ページ 6 行目 :

$$f(x, y) = (ax + by)(ax - by) + o(|x|^2 + |y|^2) \Rightarrow f(x, y) = \frac{1}{2}(ax + by)(ax - by) + o(x^2 + y^2)$$

(冒頭に 1/2 をつける . さらに  $o(\cdot)$  の中の絶対値をはずす)

- 89 ページ下から 6 行目 : 「曲率方向」 $\Rightarrow$  「主方向」

- 90 ページ問題 3 の下から 2 行目 : 「 $p - (1/\lambda)\nu$ 」 $\Rightarrow$  「 $p + (1/\lambda)\nu$ 」

- 95 ページ , 9 行目

$$\left. \frac{\partial \mathcal{L}(\gamma_w)}{\partial w} \right|_{w=0} \Rightarrow \left. \frac{d\mathcal{L}(\gamma_w)}{dw} \right|_{w=0}$$

- 95 ページ , 14 行目

$$\left. \frac{\partial \mathcal{L}(\gamma_w)}{\partial w} \right|_{w=0} \Rightarrow \left. \frac{d\mathcal{L}(\gamma_w)}{dw} \right|_{w=0}$$

- 95 ページ下から 4 行目 : 「[13]」 $\Rightarrow$  「[10]」

- 101 ページ下から 4 行目 : 「 $2\pi n = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^{m_j} (T_{i,j} \mathcal{O} \dots)$ 」 $\Rightarrow$  「 $2\pi n = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^{m_i} (T_{i,j} \mathcal{O} \dots)$ 」

- 103 ページ下から 4 行目 :

$$d_E(P, Q) := \sqrt{(u_1 - v_1)^2 + (u_2 - v_2)^2} \Rightarrow d_E(P, Q) := \sqrt{(u_1 - u_2)^2 + (v_1 - v_2)^2}$$

- 116 ページ , 2 行目 , 3 行目 ; 右側

$$\begin{aligned} \frac{d^2 \hat{u}}{dt^2}(t) &= c^2 \frac{du}{dt}(ct; \xi, \eta), & \Rightarrow & \frac{d^2 \hat{u}}{dt^2}(t) = c^2 \frac{d^2 u}{dt^2}(ct; \xi, \eta), \\ \frac{d^2 \hat{v}}{dt^2}(t) &= c^2 \frac{dv}{dt}(ct; \xi, \eta) & & \frac{d^2 \hat{v}}{dt^2}(t) = c^2 \frac{d^2 v}{dt^2}(ct; \xi, \eta) \end{aligned}$$

- 116 ページ 13 行目 (補題 11.7 の証明 3 行目) : 「 $\xi^2 + \eta^2 < \varepsilon$ 」 $\Rightarrow$  「 $\xi^2 + \eta^2 < \varepsilon^2$ 」

- 116 ページ 14 行目 (補題 11.7 の証明 4 行目) : 「 $(\xi/\delta)^2 + (\eta/\delta)^2 < \tilde{\varepsilon}$ 」 $\Rightarrow$  「 $(\xi/\delta)^2 + (\eta/\delta)^2 < \tilde{\varepsilon}^2$ 」

- 117 ページ , 下から 8 行目

「 $(r, \theta)$  を考える十分小さい正の数」 $\Rightarrow$  「 $(r, \theta)$  を考える . 十分小さい正の数」

- 120 ページ (12.2) 式と (12.3) 式を入れ替える .

- 128 ページ, 2 行目

$$\mu(e_1)e_1 - \mu(e_2)e_2 - [e_1, e_2] \Rightarrow \mu(e_1)e_1 + \mu(e_2)e_2 - [e_1, e_2]$$

- 128 ページ, 3 行目 「(12.3), (12.1) と 補題 13.1 より」 $\Rightarrow$  「(12.2), (12.1) と 補題 13.1 より」

- 128 ページ, 4 行目

$$\omega_1(\mu(e_1)e_1 - \mu(e_2)e_2 - [e_1, e_2]) \Rightarrow \omega_1(\mu(e_1)e_1 + \mu(e_2)e_2 - [e_1, e_2])$$

- 128 ページ, 下から 11 行目

ともに (13.10) をみtasることから  $\Rightarrow$  ともに (13.11) をみtasることから

- 131 ページ 8 行目 (定理のステートメントの式の右辺):

$$\lceil \pi - (\varphi_{12} + \varphi_{23} + \varphi_{31}) \rceil \Rightarrow \lceil -\pi + (\varphi_{12} + \varphi_{23} + \varphi_{31}) \rceil$$

- 131 ページ下から 6 行目 (式変形の 2 番目)

$$\int_{\partial D_\varepsilon} \kappa_g(s) ds + \int_D K d\hat{A} \Rightarrow \int_{\partial D_\varepsilon} \kappa_g(s) ds + \int_{D_\varepsilon} K d\hat{A}$$

(積分領域の  $D$  を  $D_\varepsilon$  に)

- 132 ページ 6 行目 (式変形の最後):  $\varphi_{jk} \Rightarrow \pi - \varphi_{jk}$

- 134 ページ, 10 行目

$$X_4 = (u^2 - v^2) \frac{\partial}{\partial u} - 2uv \frac{\partial}{\partial v} \Rightarrow X_4 = (u^2 - v^2) \frac{\partial}{\partial u} + 2uv \frac{\partial}{\partial v}$$

- 135 ページ下から 4 行目:

「 $f$  を  $S$  から  $M$  へのはめ込みという」 $\Rightarrow$  「 $p$  を  $S$  から  $M$  へのはめ込みという」

- 140 ページ下から 9 行目: 「[17]」 $\Rightarrow$  「[18]」

- 148 ページ 10 行目: 「本章」 $\Rightarrow$  「§13」

- 150 ページ下から 2 行目:

「一定な平均曲率をもつ曲率の臍点は」 $\Rightarrow$  「一定な平均曲率をもつ曲面の臍点は」

- 151 ページ 2 行目: 「付録 B-3」 $\Rightarrow$  「付録 B-5」

- 152 ページ 11 行目:

「この  $Y_j(t)$  が  $t=0$  から  $t=1$  まで変化するまでの回転数」

$$\Rightarrow \text{「この } Y_j(t) \text{ が } t=0 \text{ から } t=l \text{ まで変化するまでの回転数」}$$

(「1(いち)」を「l(エル)」に)

- 155 ページ 5 行目 :

「ホップより**以前**に , アレクサンドロフは」 $\Rightarrow$  「ホップより**少し後** , アレクサンドロフは」

- 170 ページ 下から 3 行目 :

$$\det(\mathbf{a}, \tilde{\mathbf{b}}, \mathbf{c}) = \det(\mathbf{a}, \tilde{\mathbf{b}}, \tilde{\mathbf{c}}) = |\mathbf{a}| |\tilde{\mathbf{b}}| |\tilde{\mathbf{c}}| \det \left( \frac{\mathbf{a}}{|\mathbf{a}|}, \frac{\tilde{\mathbf{b}}}{|\tilde{\mathbf{b}}|}, \frac{\tilde{\mathbf{c}}}{|\tilde{\mathbf{c}}|} \right)$$

$$\Rightarrow \det(\mathbf{a}, \tilde{\mathbf{b}}, \mathbf{c}) = \det(\mathbf{a}, \tilde{\mathbf{b}}, \tilde{\mathbf{c}}) = |\mathbf{a}| |\tilde{\mathbf{b}}| |\tilde{\mathbf{c}}| \det \left( \frac{\mathbf{a}}{|\mathbf{a}|}, \frac{\tilde{\mathbf{b}}}{|\tilde{\mathbf{b}}|}, \frac{\tilde{\mathbf{c}}}{|\tilde{\mathbf{c}}|} \right)$$

- 174 ページ 10,11 行目 :

$$(\mathbf{a} \times (\mathbf{b} \times \mathbf{c})) \cdot \mathbf{c} = (\mathbf{b} \times \mathbf{c}) \cdot (\mathbf{c} \times \mathbf{a}) = (\mathbf{c} \times (\mathbf{c} \times \mathbf{a})) \cdot \mathbf{b}$$

$$= ((\mathbf{c} \cdot \mathbf{a})\mathbf{c} - |\mathbf{c}|^2\mathbf{a}) \cdot \mathbf{b} = (\mathbf{c} \cdot \mathbf{a})(\mathbf{c} \cdot \mathbf{b}) + |\mathbf{c}|^2(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$$

$$\Rightarrow (\mathbf{a} \times (\mathbf{b} \times \mathbf{c})) \cdot \mathbf{c} = (\mathbf{b} \times \mathbf{c}) \cdot (\mathbf{c} \times \mathbf{a}) = (\mathbf{c} \times (\mathbf{c} \times \mathbf{a})) \cdot \mathbf{b}$$

$$= ((\mathbf{c} \cdot \mathbf{a})\mathbf{c} - |\mathbf{c}|^2\mathbf{a}) \cdot \mathbf{b} = (\mathbf{c} \cdot \mathbf{a})(\mathbf{c} \cdot \mathbf{b}) - |\mathbf{c}|^2(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$$

- 174 ページ 14 行目 :

「 $(\mathbf{b} \cdot \mathbf{c})\gamma + |\mathbf{c}|^2\delta = (\mathbf{c} \cdot \mathbf{a})(\mathbf{c} \cdot \mathbf{b}) + |\mathbf{c}|^2(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$ 」 $\Rightarrow$  「 $(\mathbf{b} \cdot \mathbf{c})\gamma + |\mathbf{c}|^2\delta = (\mathbf{c} \cdot \mathbf{a})(\mathbf{c} \cdot \mathbf{b}) - |\mathbf{c}|^2(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$ 」

- 176 ページ :

8 行目 : 「[図 1.1](#)」 $\Rightarrow$  「[図 B-1.1](#)」      10 行目 : 「[図 1.1](#)」 $\Rightarrow$  「[図 B-1.1](#)」  
 最終行 : 「[図 1.1](#)」 $\Rightarrow$  「[図 B-1.1](#)」

- 186 ページ , 9 行目

$$\lim_{u \rightarrow \pm \frac{\pi}{2}} \eta = \pm \infty \quad \Rightarrow \quad \lim_{v \rightarrow \pm \frac{\pi}{2}} \eta = \pm \infty$$

- 191 ページ 12 行目 :

$$\sigma(u) := \gamma(u) + \frac{c(u)}{a(u)}\xi(u)$$

とおくと , ...

$$\Rightarrow \sigma(u) := \gamma(u) + \frac{c(u)}{a(u)}\xi(u)$$

とおくと ,  $\xi, \dot{\xi}$  の 1 次独立性より  $b/a, c/a$  はともに  $C^\infty$  級関数になり ,

- 193 ページ 下から 8 行目 :

「 $q_v = \xi = (\cos \theta)\dot{\sigma} + (\sin \theta)\mathbf{n}$ 」 $\Rightarrow$  「 $q_v = \eta = (\cos \theta)\dot{\sigma} + (\sin \theta)\mathbf{n}$ 」

- 198 ページ 8 行目 : 「逆関数定理 (A-1 の定理 1.4)」 $\Rightarrow$  「逆関数定理 (A-1 の定理 1.5)」

- 201 ページ , 13 行目

(6.1) が成り立つことがわかる . 式

(6.1) はフルネの公式と §2 の (2.7) 式をあわせれば , 直接計算でも示せる .

$\Rightarrow$

(6.1) が成り立つ . ただし  $\tilde{\gamma}$  に特異

点があると , ここでの  $\mathbf{n}$  は  $\tilde{\gamma}$  の左側から右側に変化する可能性がある .

- 202 ページ下から 9 行目: 「 $\kappa_n = \gamma'' \cdot \nu = -\gamma' \cdot \nu$ 」 $\Rightarrow$  「 $\kappa_n = \gamma'' \cdot \nu = -\gamma' \cdot \nu'$ 」

- 206 ページ, §1 問題 3 の解答の最後: 「 $40003 \pm 0.1$ 」 $\Rightarrow$  「 $40003.5 \pm 0.1$ 」

- 206 ページ, §1 問題 3 の解答  
 $\dots x = \varepsilon^2 \cos^2 t$  とおき,  $0 < \sqrt{1 - \theta \varepsilon^2 \cos^2 t} < 1$  に注意すれば,

$$\pi \left( 2 - \frac{1}{2} \varepsilon^2 - \frac{3}{32} \varepsilon^4 \right) < \int_0^{2\pi} \sqrt{1 - \varepsilon^2 \cos^2 t} dt < \pi \left( 2 - \frac{1}{2} \varepsilon^2 \right)$$

となる.

$\dots x = \varepsilon^2 \cos^2 t$  とおき,  $\varepsilon < 1/3$  のとき  $8/9 < \sqrt{1 - \varepsilon^2} < \sqrt{1 - \theta \varepsilon^2 \cos^2 t}$  に注意すれば,

$$\Rightarrow \pi \left( 2 - \frac{1}{2} \varepsilon^2 - \frac{27}{256} \varepsilon^4 \right) < \int_0^{2\pi} \sqrt{1 - \varepsilon^2 \cos^2 t} dt < \pi \left( 2 - \frac{1}{2} \varepsilon^2 \right)$$

となる.

- 207 ページ, §8 問題 8 (3) の解答の 2 行目:

「さらに  $\kappa(0) = \dot{f}(0)$ ,  $\dot{\kappa}(0) = \ddot{f}(0)$ 」 $\Rightarrow$  「さらに  $\kappa(0) = \ddot{f}(0)$ ,  $\dot{\kappa}(0) = \dddot{f}(0)$ 」

- 209 ページ, §5 問題 2 の解答最後の 2 行:

「この式と  $\kappa^2$  の公式と  $\gamma', \gamma'', \gamma'''$  を上の関係により  $\dot{\gamma}, \ddot{\gamma}, \ddot{\gamma}$  で置き換えれば  $\tau$  の公式が得られる。」

$\Rightarrow$  「この式に  $\kappa^2$  の公式を代入し,  $\gamma', \gamma'', \gamma'''$  を上の関係により  $\dot{\gamma}, \ddot{\gamma}, \ddot{\gamma}$  で置き換えれば  $\tau$  の公式が得られる。」

- 209 ページ 3 行目 (問題 5 の解答):

$$w = re^{i\theta} \left( z + \left( -\frac{q}{p} \right) \right) \Rightarrow w = re^{i\theta} \left( z + \frac{q}{p} \right)$$

- 210 ページ, §6 の問題 1 の解答末尾: 「 $-\pi \leq u, v \leq \pi$ 」 $\Rightarrow$  「 $0 \leq u, v \leq 2\pi$ 」

- 211 ページ, §8, 問題 4 の解答:

1. 楕円放物面 
$$K = \frac{4}{a^4 b^4 (1 + 4x^2/a^4 + 4y^2/b^4)^2} \Rightarrow K = \frac{4}{a^2 b^2 (1 + 4x^2/a^4 + 4y^2/b^4)^2}$$

2. 双曲放物面 
$$K = -\frac{4}{a^4 b^4 (1 + 4x^2/a^4 + 4y^2/b^4)^2} \Rightarrow K = -\frac{4}{a^2 b^2 (1 + 4x^2/a^4 + 4y^2/b^4)^2}$$

- 212 ページ, §8 問題 4 の解答 (5) 二葉双曲面

$$K = -a^2 b^2 c^2 / \Delta^4 \Rightarrow K = a^2 b^2 c^2 / \Delta^4$$

$$H = \frac{abc}{2\Delta^3} \{ a^2 (\cosh^2 u \cos^2 v - \sin^2 v) + b^2 (\cosh^2 u \sin^2 v - \cos^2 v) + c^2 \sinh^2 u \}$$

$$\Rightarrow H = \frac{abc}{2\Delta^3} \{ a^2 (\cosh^2 u \cos^2 v + \sin^2 v) + b^2 (\cosh^2 u \sin^2 v + \cos^2 v) + c^2 \sinh^2 u \}$$

北海道教育大学の宮本幸紀さんに御指摘いただきました

- 213 ページ, §9 の問題 3 (3) の解答: 「 $\lambda_u p_u - \lambda_v p_v = 0$ 」 $\Rightarrow$  「 $\lambda_u p_v - \lambda_v p_u = 0$ 」
- 213 ページ, §9 の問題 3 (4) の解答: 「 $p - (1/\lambda)\nu$ 」 $\Rightarrow$  「 $p + (1/\lambda)\nu$ 」
- 213 ページ, §10 の問題 2 の解答 4 行目の式:  

$$\gamma''(s) = u''(s)p_u + v''(s)p_v + (u'(s))^2 \nu \quad \Rightarrow \quad \gamma''(s) = u''(s)p_u + v''(s)p_v + R(v'(s))^2 \nu$$
- 213 ページ, §10 の問題 2 の解答 5 行目: 「 $R^2(u')^2 + (v')^2 = 1$ 」 $\Rightarrow$  「 $(u')^2 + R^2(v')^2 = 1$ 」
- 213 ページ, §10 の問題 2 の解答 7 行目:  
 「とくに  $a = 0$  のときは母線,  $a \neq 0$  のときはつるまき線である」  
 $\Rightarrow$  「とくに  $c = 0$  のときは母線,  $c \neq 0$  のときはつるまき線である」
- 214 ページ, §12 の問題 1 の解答  
 以下に差し替え:

(12.1) と (12.2) から (12.3) を導くのはそれほど難しくなく、ただし  $d\alpha$  が性質

$$d\alpha(fX, Y) = f\alpha(X, Y)$$

を満たすことも確かめる必要がある。そのためには、ベクトル場の交換子積の性質

$$[fX, Y] = f[X, Y] - df(Y)X$$

を用いる。

- 215 ページ, 上から 3 行目:

$$\int_{\gamma_1} \alpha - \int_{\gamma_2} \alpha = \int_{\gamma} \alpha = \int_D d\alpha = 0 \quad \Rightarrow \quad \int_{\gamma_1} \alpha - \int_{\gamma_2} \alpha = \int_{\gamma} \alpha = \int_{\Omega} d\alpha = 0$$

- 216 ページ, 付録 B-1 問題 1 の解答

$$\begin{aligned} \gamma''(s) &= \{(\delta - s)\kappa(s)\}'\mathbf{n}(s) - (\delta - s)\kappa(s)^2\gamma'(s) \quad \Rightarrow \\ &\gamma''(s) = \{(\delta - s)\kappa(s)\}'\mathbf{n}(s) - (\delta - s)\kappa(s)^2\sigma'(s) \end{aligned}$$

- 216 ページ, 付録 B-1 問題 2 の解答

式の最後:  $+(-\pi a, 2a)$ .  $\Rightarrow$   $-(\pi a, 2a)$ .

- 225 ページ, 梅原の略歴

筑波大学助手, 大阪大学助教授, 広島大学教授を経て, 現在 大阪大学 教授  $\Rightarrow$

筑波大学助手, 大阪大学助教授, 広島大学教授, 大阪大学教授を経て, 現在 東京工業大学 教授

● 225 ページ, 山田の略歴

慶應義塾高等学校教諭, 熊本大学講師・助教授を経て, 現在九州大学 教授

⇒

慶應義塾高等学校教諭, 熊本大学講師・助教授, 九州大学教授を経て, 現在 東京工業大学 教授